

「ねらい」と「内容」と「活動」

— 幼児教育の組織について —

坂元彦太郎

八一〇



新幼稚園教育要領では、いわゆる幼児教育の内容を示すのに、六領域に整理されている、多くのねらいをあげるといふやり方をしているのは周知のこととなっているであろう。一方、同要領では、教育課程の編成については、もろもろのねらいを組織することと、のぞましい活動を選択配列することとの両面を一体的に行なうことがたいせつである、と述べている。

ところで、元来、学校のような教育機関の教育の中味をおさえるには、大体三種のやり方がある。そのうちで、最も古

くからあって普通なのは、指導する個々の内容をあげるやり方で、おそらく、普通の人たちは、これ以外に、教育の実質をつかまえるやり方はいえない、くらいに思っているのである。

それに対して、むしろ、こうした考えに対立しておこった新教育運動においては、こどもたちの「活動」を重んじる態度がどの流派にも一応共通であったといえよう。したがってこうした人たちは、ある教育機関の教育の実質を、そこで展開されるこどもたちの具体的な活動でおさえる、といった傾向をもつようになる。いいかえれば、教育課程、すなわち教育内容の全貌を、こどもたちのもろもろの活動の総和である

と考えるようになる。

ところがまた、こうした人たちの主張や実践の中にある、いわば無方向性といったものにあきたらない人たちが、さりとて、従前の寄木細工的な内容一点ばりにも不満を感じ、指導の目標を明確にして、それをもととして活動や内容のことを考えるという態度をとるようになったのである。

以上かたんに述べたような、「内容主義」「活動主義」

「目標主義」といえばいえるような三つの考え方が現在でもならんで存在しているのである。ならんであるだけでなく、同じ人の考えの中に、この三者ないしは二者が適当に調和を保って併存していることが多いのである。

ところで、こんどの要領では「幼稚園教育の特質に基づき各領域は小学校における各教科とその性格が異なるものであることに留意しなければならない。」と第二章内容の前文の末尾に述べてあるが、この文の意味はさまざまな面にわたって複雑なものであるというまでもないが、この文句が出てくるのが、領域に示してある事項が「原則として幼稚園修了までに幼児に指導することが望ましいねらい」であるとし、そのことについて説明している段の末尾なのである。だから、その点からは、少なくとも、直接的には、小学校の教科とのちがいを、領域は「ねらい」をまとめたものである点から説

いたものであると考えていいであろう。

実際に、小学校などの学習指導要領をみると、各教科の實質は「内容」という項目の下に相当にくわしく述べているのであって、幼稚園の場合のように、ねらいとして、単に一般的な方向をかたんに記述しているのは、ひじょうにちがっているのである。

△2V

つまり、幼稚園教育要領では、教育の内容に関する問題を幼児に達成させるのがのぞましいねらいを手がかりとして解きほごそうとしている。いいかえれば、個々のねらいによって、教育の内容を示唆しようとしているのである。いわば、さらに向かわせようという方向を指示しているのであって、その折々の個々の内容は自由に選ぶことができるし、また、さまざまな具体的な活動をその場合の实情に応じてとることができる。そこに、幅のひろい、弾力性のあるいとなみが認められている。

これに対して、小学校の学習指導要領のやり方は、教育内容の問題を、個々の具体的な教材内容を示すことによって解決しようとしている。すなわち、教育内容を、個々の特殊の

内容をこまかに示すことによって明らかにしているのである。内容ということばを二度くり返して説明するのはまことに能のないことであるが、幼稚園は内容をねらいによって示唆し、小学校は内容を内容によって示す、といえるであろう。

しかしながら、小学校の場合でも、内容としてあげてあることがらは、教科や場合によってはまことにさまざまなものであり、その中には、ねらい（目標といってもいい）のようなものから、個々の実質的な内容はいうに及ばず、その学習の活動のことまで示してあることが多いのである。幼児教育関係者には、「内容」という個所がどういう記述からなっているか知られていないようなので、次に、小学校理科の部の「内容」という標題の下に述べてある文の、冒頭から数十行転載してみよう。

理科第一学年

「内容」

(1) 校庭や野山の自然に接し、全体的・直覚的な観察や遊びなどを通して生物に興味をもち、それらの性状や生活の目だった様子に気づき、生物をかわいがるように導く。花だんの草花の観察と、世話の手伝いをする。

⑦ 春の校庭をめぐり、花だんの草花や庭木の花の色、

形などを観察し、いろいろなものがあることに気づき、校庭の草木に親しむ。

⑧ あさがおのような粒の大きな種子をまき、種子のまき方を知る。まいた種子に水を与えて発芽をまち、発芽や育つ様子を見守り、世話の手伝いをして、これを愛育しようとする。

⑨ 春まいた草花の開花について話し合い、花を数えたり、つぼみや葉を観察したりなどして、親しみをもつとともに、その色・形・草たけなどの違いに気づく。

⑩ 省略

このような記述が、一年の理科についてだけでも、さらに数ページもつづいているのである。

これに対して、新幼稚園教育要領では、「動植物を飼育栽培することを喜ぶ」と「身近かな動植物の性質や成長などに興味や関心をもつ」といったねらいが、これと関連があるわけであるが、どちらがいいとかわるいとかはさておき、この両者を比べると、いろいろな違いが感得されることであろう。

しかし、いちばん大きなことは、小学校の場合は、ひじょうにくわしくこまかに、内容的なことだけでなく、その折々のねらいや学習の活動までも示している、という点である。そ

だから、少しく極言するならば、幼児教育のねらいも、幼児たちにいとなませているのぞましい活動の中で総合的に達成されているものを分析し抽出したものであり、小学校などで内容といわれているのに相当するものも、幼児の現実の活動の中に含まれているところのものである。かくして、活動によってねらいが具体化され活動によって個々の内容が設定されるのである、といえるであろう。

したがって、前述のように、幼児ののぞましい活動が適切に分類され、適切にもう羅することができて、それについて適切な指導の仕方を解説することができ、というようなことができるならば、それが教育の内容に關しての最善の示し方である、ということができるのである。しかしながら、こういうことを、わが国の全地域にわたる全幼稚園にわたって強行するということは、少なくとも現在においては不可能なことである。一方からいえば、幼児教育の従事者の研究や反省がまだそこまで徹底していないので、これからの研究にまつところが多いのである。したがって、現在の段階では、教育要領に活動を分類して標準的なものを示すにはいたらなかったであって、このことが、裏からいって、ねらいを中心的な位置に置くようにしなければならなかったのである。

とはいえ、現場の人たちにとって、また、幼児の教育課程

にとつて、幼児の活動をのぞましい活ばつなものにすることが、最大のつとめであることはいくらも過ぎてもかまわないのである。ある活動がのぞましいとされる理由は、適切なねらいをよく達成することができるようになっているとともに、幼児の心身の発達の実情に應じ、幼児の生活環境と無理なくつながら、地域や国の実情にも應じていることである。したがって、ただ、抽象的に何かのねらいを達成するということからだけで、生きた活動をみちびき出すことはできない。ねらいは、いわば骨組にはなるが、血や肉を直接に生み出すことはできない。血や肉をつけてふくよかな生命体のような幼児の活動を展開させるのは、ここにあげたさまざまな実情に應じた、幼児や教師の自からうみ出すところのものである。むしろ偶然的ともいっていいような、あるいは、かんやこつできまるといってもいいようなものである。こうした具体的な生きた活動の中で、もろもろのねらいが達成されるのであり、知識や技能などの内容的なものめばえも身につけられるのである。

* * *
* * *
* * *